

■タウンミーティング概要(令和8年7月27日開催)

項番	質問要旨	具体的内容	市長の発言
1	DXについて	町会で市の予算をいただきながらDX化を進めているが、市ももう少しDX化を推進した方がいいと思う。	DXは私の公約の一丁目一番地で、市の手続きなどを市役所に来なくても済むようにしたいと思っています。ペーパーレス化や、チームスを使ったテレワークなども、仮庁舎の移転後は庁舎が点在する形になるので、仮庁舎移転を契機に進めていきたいです。DXに関してもNECと包括協定を結びました。DXの推進具合は、千葉県内ではトップレベルになっていて、既にオンラインでできる手続きは1,000件を超えており、また、例えば窓口をAIに代替させたり、電話もAIにしたりと様々な形でDXの検討を進めています。さらに、デジタル手続きの利用に不安を感じる方へも、講座を行うなど配慮しながら、コンパクトな市役所へと進めていこうと思っています。
2	外国人市民について	外国人との共生について、NPOとして外国人の子どものための勉強会を行っているが、ほとんどの外国人の子どもが日本語を勉強する機会がない。学校では言葉がわからないので授業についていけずに登校拒否になったり、中学校を卒業しても高校に行ける学力がない。松戸市民として一緒に共生していくにはどうしたらいいか。	日本に来る外国人は若い方が多く、地域によっては外国人のお子さんも沢山いるので、小中学校に日本語指導を行うための人材を配置しています。プラスしてお子さんの保護者向けには、(公財)松戸市国際交流協会での日本語教室(16歳以上が対象)などもありますが、実際は追いついていないのが現状だと思っています。家庭では母語を使い日本語学習が進んでいない状態で、高校に上がったときに学力が追いついていないことがあり、市と県が連携してサポートをしています但追いついていない状況であることは課題として認識しています。そこは人を手厚くしたり、自動翻訳などのDXを活用していく必要があります。そのための予算配分などはバランスを見ながら慎重に進めていかなければいけないと思います。
3	図書館について	図書館の蔵書が少ない、ゆっくり読めるスペースがないところが多い。そこに外国人も利用しやすいような交流コーナーがあれば小さい市民レベルの交流ができと思う。なるべくお金のかからない範囲で本の数を増やして欲しい。	今、まちをリノベーションしていく中で、図書館や市民会館などのホール機能は、松戸駅周辺がだいぶ古くなってきているので、近未来型の50万人が誇れる図書館があり、ホール・アートギャラリー等もある文化複合施設をつくることを目標に進めています。今までの図書館は静かにしないといけなかったですけども、今はみんなでコミュニケーションする場所があり、静かに読みたい人は個室に入って読む図書館があるという方式が主流になっているので、みんなが交流できる場所をつくりたいと思っています。
4	子どもの居場所について	公園が少ないと感じます。ほかの自治体から転入してきたが、前住所は家のすぐ近くに公園があり、遊具もいろいろな種類・対象年齢のものがあった。松戸の公園は、ブランコと滑り台と、あればジャングルジム、砂場くらいしかない。高齢でも身体を動かせるものなどであると良いと思う。また、小さい子はほっとルームがあるが、それより大きい子が体を動かせる場所があればよいと思う。	面積の大きい21世紀の森と広場がありますが、街なかでも公園が少ないエリアがあります。そういう地域には公園をつくっていかなければいけないですし、子どもたちからはボール遊びができるように、周りにネットを張って欲しいという要望をいただいているので、子どもたちが思いっきり遊べる場所もつくっていかなければいけないですね。夏休みは屋外がすごく暑い状況があります。昨年すべての体育館に冷房を導入したので、そういうところを開放して夏の間はその中で遊んだり、少しでも子供たちが遊べる場所・居場所をつくらなければいけないと思います。
5	引きこもり・不登校支援について	引きこもりや不登校の方のサポートを行っているが、そうした子どもたちの居場所を作るために、アティーズ元山を平日、午前中から開設していただけないか。また、起立性調整障害など別室登校している子どもたちに学びの機会を提供するため、お昼から夕方にかけて公立小中学校を開くことはできないか。	いま、子どもや保護者の悩みは複雑・多様化していて、そのスピードに対応できていないのが正直なところ です。県会議員時代から不登校の子どもへの支援を行ってきたのですが、ようやくフリースクールに対して行政が支援するように なりました。松戸は県内でフリースクールに対して支援している自治体のトップランナーです。これからもっと何が出来るかについては考えなければいけないと思います。また、小中学生等の居場所についても、子どもたちはすぐに成長してしまうので、スピード感をもって様々なニーズを 勘案して進めていきたいと思います。
6	交通利便性の向上と観光振興について	松戸市は人口が50万人おり、住宅街が広がっていて住みやすいと思うが、バス路線が縮小したり、公共交通が後退していると思う。千葉市のモノレールとか路面電車とか自動運転化とかAIとか、活用すれば人件費を削減できと思う。特にロープウェイは、他の公共交通と比べ、事業費を削減することが可能であり、松戸は高台が多く景観も楽しめるので、ロープウェイやモノレールがあれば都市型の観光資源としても活用できるのでは。	松戸のような都市部であっても交通空白地域があるので、そこをどう埋めるかの方策を考えています。例えば、オンデマンド交通。常盤平あたりで考えているのが、スマホで呼ぶと20分以内に到着し、病院などのニーズが高い場所を回ってくれる乗り合いタクシー。また、松戸市には区画が基盤の目のようにきれいになっているエリアがあるので、自動運転の車を走らせたいという考えを持っています。実際に検証を柏の葉キャンパスなどではやっていますけれども、そういったものが松戸でも走らせられないか考えています。ロープウェイは横浜のみなどみらいにあり乗ってみたいですが、どんな交通手段がいいか、またどれだけコストをかけて、どれだけのニーズがあって、リターンがあるかなど含めて考えていきたいと思います。
7	松戸の魅力について	松戸市は人口が50万人にいて東京からも近く、多くの資源があるので松戸の魅力をうまく活用していただければと思う。	松戸市はポテンシャルの高い街だと思っています。、高度経済成長期から50年、60年経って古くなったまちを、まさに今リニューアルを進めています。東京との違いは、日常の生活圏に緑が豊富にあることです。また、歴史がありながら、東京にも近く、少し行けば病院があり、買い物できるところがあり、非常に住みやすい場所です。そのようなポテンシャルを活かしながら街をきれいにリノベーションしていかなければいけない。まだまだ松戸は誇れる街、選ばれる街になると思っているので、引き続き進めていきます。
8	部活動について	娘が陸上をやっていて全国大会に出たが、高校から行くところがない。みんな船橋、柏、東京に行ってしまう。	松戸四中は音楽の分野で全国1位に輝くなど、小中学生が活躍しても、その先に選択肢がないというご指摘はおっしゃる通りです。その中で専修大学松戸高校は頑張っていて、すべての競技や文化系においても全国レベルの部活動があります。そして、市立松戸高校が野球で千葉県大会において市立船橋高校とぎりぎりの戦いを繰り広げたほか、昨年も含めて陸上、柔道、吹奏楽も全国大会に出場するなど優秀な成績を収め、頭角を表しています。市松はこれまでほぼ松戸市民のみだったのが、要件を変えてから、柏や市川から入学者が増えて、レベルが上がっていると思います。公立の中でも倍率が高く、人気がある学校になってきています。
9	総合医療センターについて	総合医療センターについて、普通の病院は黒字化が前提であり、あまりお金のない人を受け入れてないと思うが、松戸市立病院はちゃんと全部受け入れているから赤字になっていることを聞いたが本当か。	もちろん公立病院であり、医療法で決まっていますので、基本的には病院に来た方を断ることはできません。そして、そのこと自体は大きな影響はないと思っています。私たちは経営分析を徹底的にして原因を明らかにしました。そもそも総合医療センターの収支構造を見ると令和6年度の人件費率が71%です。大半の民間病院は50%くらいです。22%も違ってくる、総合医療センターの売り上げが約200億円なので、40億円くらい他の病院よりもコストが大きいという構造になっています。人が多いとか、公務員形式の雇用の形の結果、公立病院の9割が赤字なんです。公立病院がこのまま行ったら持たなくなるかもしれないということで、私どもは片山財務大臣のところに行って、少し補助金を増やしてもらったりしています。また、小児科、子どもの医療は非常に採算が悪いです。しかしながら大事な医療であり、それをやるのが公立病院の役割です。よって、一定の赤字は仕方ないと思います。それが無くなったら子育てしやすい街ではなくなってしまいます。一方流山にはそのような病院がありません。今交渉しているのが、流山のお子さんを受け入れる代わりに、負担金をいただくということです。昨年くらいから交渉のステージに入っていて近隣市にお願いして回っています。それで何とか持たせないといけません。今持っているのは採算の悪い医療ですが、採算性の良い医療だけを持っていたら、公立病院としての意義がないのでなかなか難しいところです。だから一定の赤字は仕方ないと思っています。しかしながら70億というのは令和6年度のも最終赤字なんです、行き過ぎだと思います。千葉西総合病院とか新東京病院は、スーパードクターと言われる先生がいて、やり方を聞いているとすごいなと思うわけです。但し、これが市民の利益になるかは別です。利益が出ている病院なのは間違いないです。きれいさと評判の良さでは総合医療センターの方が良いです。人が沢山いるのでとてもやさしい医療が提供できています。
10	市長としての軸について	市長として何を軸として、それを市民の皆さんとどのように共有されているのか。もうひとつは、一市民として何か協力できないかと思っている。このタウンミーティング以外で市民が自分の仕事を持ちながら何か関わられるようなことがあれば教えていただきたい。	軸は持続可能なまちをいかに作っていくかです。持続可能で選ばれ続けるまちにしていかなければなりません、自治体間競争に負けて破綻寸前の自治体が増えています。税収よりも圧倒的に福祉や医療などに支出が上回り、インフラも老朽化し更新が間に合わない。関西のある県もまもなく財政破綻の自治体になるのではないかと言われていますが、その中で持続可能で選ばれ続ける街にしていかなければいけないと思っています。そのためには選択と集中、今の時代何が松戸にとってプラスになるか、そこをしがらみ無くやり続けなければいけないと思います。街づくりに関しては投資なので、今まで以上に数字で冷静に分析していかなければなりません。それもしっかりと情報発信して、情報公開して、こういう過程で、こういう数字だから選んだということを皆さんと共有しながら進んでいかなければいけないと思っています。市民の皆さんが関わられるものは何かというと、市民の皆さんが参加できる地域活躍塾というものがあり、活動内容のレクチャーや実地体験等のプログラムを実施しています。その修了生がいろんな地域で活躍しています。自分でお祭りを立ち上げて、SNSで募集したら50人のボランティアが集まりました。1000人以上のお子さんが集まって盛り上がった取り組みや、ごみの掃除や子どもの見守り活動などいろいろありますが、そのヒントが活躍塾で得られると思いますし、ネットワークができると、いい取り組みが広がっていくと思うので、そういうところに参加してもらえればと思います。